

## 令和6年度 京都府高次脳機能障害（京都市域）支援 ネットワーク会議を開催します！！



高次脳機能障害のある方への支援には、医療、福祉、介護、就労、相談支援等様々な関係機関の連携が必要になります。

関係機関相互の切れ目のない支援ネットワークを構築するため、京都府と京都市は、毎年「京都府高次脳機能障害（京都市域）支援ネットワーク会議」を開催しています。

### 第一部

#### 基調講演

### 『循環器病対策推進計画における 脳卒中患者に対する両立支援の展開』

#### <講師>

京都大学医学部附属病院  
脳卒中療養支援センター・もやもや病支援センター  
センター長 **宮本 享 氏**

日時：令和7年1月9日（木）  
午後1時～午後3時30分

会場：COCO・てらす  
4階 研修室1

#### 対象者

京都市内の医療機関、障害者地域生活支援センター、障害福祉サービス事業所、就労支援機関、地域包括支援センター、介護保険サービス事業所、障害児通所支援事業所、各区・支所保健福祉センター、児童福祉センター、教育機関等の職員

「高次脳機能障害のある方への復職支援」をテーマとし、その現状や課題を知り、理解を深めたいと考えております。高次脳機能障害のある方への支援に関わる皆様、ぜひ御参加ください！！

詳細は、京都市高次脳機能障害者支援センターHPをご覧ください。



ホームページ



申込フォーム

#### <お問合せ>

京都市高次脳機能障害者支援センター  
☎ 075-925-6256

### 第二部

#### シンポジウム

### 『高次脳機能障害のある方への 復職支援の実際』

#### <座長>

京都光華女子大学  
看護福祉リハビリテーション学部  
教授 **上田 敬太 氏**

#### <シンポジスト>

京都大学医学部附属病院  
脳卒中療養支援センター・もやもや病支援センター  
センター長 **宮本 享 氏**

独立行政法人 労働者健康安全機構  
京都産業保健総合支援センター  
産業保健専門職（保健師） **松田 雅子 氏**

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構  
京都支部 京都障害者職業センター  
主任障害者職業カウンセラー  
**溝口 昌代 氏**



京都市  
CITY OF KYOTO



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

# 障害者支援施設について



## 訓練プログラム(認知リハ)の紹介

京都市地域リハビリテーション推進センターの障害者支援施設は、COCO・てらすの4、5階にあります。

当施設では、18歳以上の高次脳機能障害の診断を受けた方が、日常生活の自立や就労・復学等の社会参加等を目標に、通所・入所の形態で日々訓練に取り組まれています。

訓練プログラムには、運動系と認知系があり、今号は、認知系訓練プログラムの1つである“**認知リハ**”について紹介します。

目的：注意集中力・記憶力・遂行機能の改善  
発動性の向上・衝動性のコントロール  
障害への気づき・症状理解の推進  
代償手段の獲得・役割遂行意識の向上など

場所：5階 学習室

実施日時：火・木の1コマ目(9:50~10:30)

担当職員：作業療法士・言語聴覚士・心理士



## 内容

- ① **開始前**：必要な物(文具類・ファイルなど)を用意して待ちます。当番制で、担当者はホワイトボードにスケジュールなど必要なことを記入します。書き漏れや字の誤りがあったり、当番を忘れてしまう人もいます。
- ② **朝礼内容の確認**：朝礼(9:20~9:30)での話(連絡事項・その日の話題)を把握できているか・思い出せるか、などを確認します。思い出すことが難しい人には、メモの必要性を伝え、メモをとる練習につなげていきます。
- ③ **深呼吸**：脳にしっかりと酸素を取り込み、プリント課題に取り組む準備をします。
- ④ **プリント課題**：記憶・注意・遂行機能・語想起・文章作成・計算など1人1人に合わせたプリントを職員が用意し、取り組んで頂きます。すらすら解ける課題もあれば、なかなか解けない課題もあり、完璧にできたつもりでもミスがあったり、と自身の得意・不得意に気づききっかけになります。困難そうな時には、ヒントを出して完成に導き、達成感を得られるよう援助します。集中力が切れてきた時には、お茶を飲む・伸びをする・深呼吸をするなどの対策を！
- ⑤ **片づけ**：完成したプリントに穴を開け、ファイルに挟み、所定の棚に戻します。手順を忘れる、穴がずれる、穴に通せない、など何気ない作業が困難になっている人もいます。
- ⑥ **体操**：集中して取り組んだ後に、凝り固まった首や肩をほぐします。
- ⑦ **深呼吸**：大きく呼吸して、リフレッシュし、終了。お疲れ様でした◎

# プログラム紹介・行事編(レクスポ大会)

当施設では、年に数回、行事を企画・実施しています。10月16日(水)にレクスポ大会(卓球バレー)を催しました。当日は15名の利用者が参加され、職員も入り、3チーム総当たり戦で行いました。かなり激しいスマッシュや巧みな駆け引きが見られ、感嘆の声や笑い声も多く出ていました。皆、日頃の訓練の成果を思う存分発揮し、楽しまれたようでした。



## ちょこっと豆知識

**レクスポ**：レクリエーションスポーツの略。幼児から高齢者まで、生涯を通して誰もが楽しみながら参加できるスポーツです。勝敗にこだわらず、レクリエーションの一環として気軽に楽しみ、運動を通して仲間づくりや家族との交流を深め、健康を促進していくことを目的として行われています。

**卓球バレー**：卓球台を使い、ネットを挟んで、いすに座ってピン球を転がし、相手コートへ3打以内で返す、というスポーツです。1970年代、重い障害がある人でもスポーツを楽しみたい！と、大阪の筋ジストロフィー児が学ぶ養護学校で始められた日本発祥の団体スポーツで、その後、京都の鳴滝養護学校(現：鳴滝総合支援学校)でルールや道具の工夫改善がなされ、障害者スポーツとして全国に広がっていきました。現在は誰でも簡単にプレーすることができる競技特性からユニバーサルスポーツとして国内外に普及しています。



## 京都市地域リハビリテーション推進センター 障害者支援施設 概要

- ◆ 利用対象者：18歳以上で高次脳機能障害を有する方
- ◆ 利用定員：入所又は通所での自立訓練(機能訓練25名、生活訓練15名。うち施設入所支援20名。短期入所も行っています。)
- ◆ 利用期間：個々の課題や目標に応じて、機能訓練は最長1年6か月、生活訓練は最長2年
- ◆ お問い合わせ：京都市高次脳機能障害者支援センター  
TEL:075-925-6256 FAX:075-925-6472



## 「地域ガエルのお出かけ講座」のご紹介

当センターでは、専門職員（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、高次脳機能障害者支援コーディネーター等）が、京都市内のお住まいの地域に直接出向き、リハビリテーションや高次脳機能障害に関連する講座を無料で実施しています。

テーマは、これまでの依頼内容を基に「身体のリハビリテーション」、「食事やコミュニケーション」、「支援者の腰痛予防」、「高次脳機能障害」等実習を含む全15テーマをラインナップ。

今年度も様々なテーマの中から依頼に基づき、12講座を開催。約150名の支援者の皆様に受講していただき、好評を得ています。

講座の詳細や申込方法については、当センターHPのお出かけ講座案内チラシをご覧ください。当センターFacebookでも紹介しています。



（写真は支援者の腰痛予防の講座の一コマです。）



お出かけ講座



Facebook



## 「地域リハビリテーション推進研修

### ―出講型実習講座」のご紹介

上記のお出かけ講座以外に、地域リハビリテーション推進研修の出講型実習講座として、「移乗編」、「ベッド上移動・起き上がり編」、「座位で出来る集団体操編」、「臥位で出来る個別運動編」、「介助用リフトの正しい使い方」の5講座の出講申込を受け付けています。

令和7年1月には各講座を当センターで開催予定ですが、同じ内容を皆様の職場で開催できます。リフトの講座は当センターを会場として開催することも可能です。

講座の詳細や申込方法については、令和6年度地域リハビリテーション推進研修プログラムをご覧ください。



（写真は「ベッド上移動・起き上がり編」の一コマです。）



（写真は介助用リフトの正しい使い方の一コマです。）



実習(出講型)  
申込フォーム

リハ\*エール35号（令和6年12月発行）  
京都市印刷物 第 064782 号  
発行：京都市地域リハビリテーション推進センター  
〒604-8845  
京都市中京区壬生東高田町1番地の20